

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	下田 良秀（5）	<p>1. 新型コロナウイルス感染症に対する富士市の対応について</p> <p>現在、世界中で新型コロナウイルス感染症が蔓延する事態となり問題となっている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は、昨年12月、中国湖北省武漢市において確認されて以降、中国を中心に感染が国際的に広がりを見せており、世界保健機関（WHO）は、1月30日、新型コロナウイルス感染症について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言した。新型コロナウイルスによる肺炎については、中国が提供した感染者約4万4000人の詳細なデータを基に分析した結果、約8割が軽症で、約14%が肺炎や息切れが起きる重症、約5%が呼吸困難や多臓器不全を起こし重体となったとのことである。また、MERSは致死率が3割以上、SARSは約1割とされる中、新型コロナウイルスによる肺炎については、致死率が約2%で比較的低いとの見解を示した。</p> <p>これまで人類の歴史においても感染症は多くの人的、経済的等、様々な被害をもたらしてきた。そのような中、我が国は、速やかに新型コロナウイルス感染症を「指定感染症」に指定するとともに、2月1日から、上陸の申請日前14日以内に湖北省における滞在歴がある外国人等について、特段の事情がない限り、出入国管理及び難民認定法に基づく上陸拒否の措置を講じた。さらに、2月13日から、より包括的かつ機動的な水際対策として、感染者が多数に上っている地域から来訪する外国人や、感染症の発生のおそれがある旅客船に乗船する外国人に対し、迅速に上陸拒否を行うことのできる措置を講じた。また、世界に先駆けて、武漢在住の邦人等763人の帰国を支援し、帰国後の生活支援、健康管理を行ってきたほか、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセスについて、検疫法に基づく検疫を実施中である。</p> <p>こうした状況下において、政府として、国民の不安をしっかりと受け止め、水際対策とウイルスの国内への蔓延を食い止めることに全力を挙げて取り組むとしている。</p> <p>しかしながら、地方自治体においても感染は拡大しており、富士市においても感染者が出てきてもおかしくない状況にある。</p> <p>国、県との連携や各種イベントや交流人口の多い施設等への予防策の徹底、発生した際の対応、庁内各部、各課への統一的な対応策など、事前に考えるべきことが多くある。</p> <p>そこで以下質問する。</p> <p>(1) 富士市における新型コロナウイルス感染症への対応の現状と今後について</p> <p>(2) 富士市内で新型コロナウイルス感染症が発生した場合の富士市立中央病院の対応について</p> <p>2. 駿河湾フェリー寄港地としての田子の浦港について</p> <p>現在、社会環境の変化から存続が難しくなった清水港（静</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
4	下田 良秀（5）	<p>岡市清水区）と土肥港（伊豆市）を結ぶ駿河湾フェリーは、旧運営事業者が2019年3月末での撤退を表明した後、静岡県が主体となって関係市町や団体、運航のノウハウを持つ民間事業者らで構成された一般社団法人ふじさん駿河湾フェリーが運航を存続させている。</p> <p>県は事業承継を決める前から、自治体職員や観光関係者の利用を促すほか、船上イベントを行うなど、様々な利用促進策に取り組んでいるが、利用が低迷しているのが現状である。</p> <p>そこで県知事は定例会見で、てこ入れ策として新航路を検討していることを明らかにし、新たな寄港先として富士市の田子の浦港、沼津市の沼津港、西伊豆町の田子漁港、松崎町の松崎港などを検討しているとのことである。</p> <p>そこで以下質問する。</p> <p>田子の浦港の駿河湾フェリー寄港地としての可能性や誘致について、市長の考えを伺う。</p>	市長 及び 担当部長